

防災の

森づくり

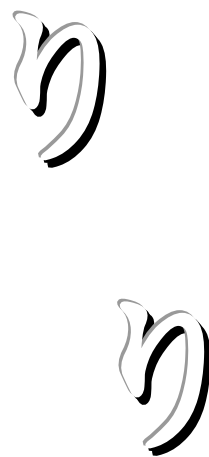
川づくり

「そだ」
「粗朶」がむすぶ豊かな里山とやさしい河川

「ゲリラ豪雨」をはじめとして、各地で多発する水害。その被害を拡大させる要因の一つに「山の荒廃」があげられています。間伐などの手入れが行き届かず、山が本来もっている保水力が低下して、土砂崩れや河川への大量の木の流出を引き起こしてしまうのです。その被害を受ける下流の都市の住民が、山の荒廃をくいとめるためにできることはあるでしょうか。私たちは日本に昔から伝わる山の木の利用法「粗朶（そだ）」づくりに注目して、災害に強い環境づくりの実践を呼び掛けます。

※裏面に関連講習会などの案内もあります

セブン-イレブンみどりの基金
一般財団法人セブン-イレブン記念財団

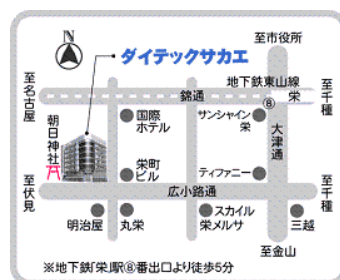


第1回シンポジウム

6月27日 Sun

14:00~16:30

ダイテックサカエ 6階ホール
(名古屋市中区錦 3-22-20)



参加無料・申込不要

報告1 兵庫県佐用町の水害被災地復興 炭プロジェクト (被災地NGO協働センター代表・村井雅清さん)

報告2 森林の水土保持機能 (岐阜大応用生物科学部教授・木村正信さん)

報告3 粗朶沈床工の歴史と実践 (井納木材社長・井納英昭さん)



主催：特定非営利活動法人 レスキューストックヤード

後援：国土交通省中部地方整備局、愛知県、岐阜県

2010年度 セブン-イレブンみどりの基金助成事業

COP10 (生物多様性条約第10回締約国会議) パートナーシップ事業

【粗朶(そだ)とは】里山の雑木を束ねたもの。日本では昔から薪(まき)などの燃料として使われてきましたが、明治期にオランダ人土木技師デレーケが粗朶を複雑に組み合わせることで川の護岸の基礎に生かす「粗朶沈床(そだちんしょう)工」を日本に導入。昭和40年代ごろまでは各地の里山で農家が農閑期の作業として「粗朶づくり」に励み、木材業者などがそれを用いて河川工事を行っていました。そこでは里山の保全が川の整備、つまり水害に対する防災・減災につながっていたのです。しかし高度経済成長にともなって河川整備はコンクリート工法が主流となり、里山では農家が減って森林の手入れができなくなりました。岐阜県では全国でも数少ない粗朶の生産とそれを活用した河川整備がまだに行われていますが、その継承も危うくなっています。



第1回シンポ(6/27、参加無料・申込不要)をはじめ以下の関連講習会、勉強会を予定しています

※いずれも当日の天候によって変更の場合あり

① 7月10日(土) 10:00～ 第1回講習会 粗朶づくりの里山見学(岐阜県揖斐川町谷汲有鳥)

② 8月6日(金) 19:00～ 第2回勉強会 近自然河川工法と防災(名古屋建設業協会)

③ 11月13日(土) 第2回講習会 粗朶づくりの基本(岐阜県内)

④ 12月5日(日) 第3回講習会 粗朶づくりの実践(岐阜県内)

2011年1月(予定) 粗朶沈床工現場見学会

2月(予定) 報告会兼シンポジウム

※①、③、④の講習会および見学会は名古屋からの送迎バス代、保険代として各回1,000円をいただきます
(レスキューストックヤード会員は無料)

※②の勉強会はレスキューストックヤード不定期学習会を兼ね、参加費500円(同会員は450円)をいただきます

※参加ご希望のかたは以下の内容をご記入のうえ、ファクス(052-253-7552)またはメール(info@rsy-nagoya.com)で希望日の1週間前までにお申し込みください。正式な時間、集合場所などは直接お知らせします

「防災の森づくり 川づくり」講習会等参加申込書

氏名(複数の場合は全員)

住所(市区町村まで)

連絡先(電話またはメールアドレス)

参加希望日(複数可)



【主催・問い合わせ先】 特定非営利活動法人レスキューストックヤード

〒461-0001 名古屋市東区泉 1-13-34 名建協 2階

WEB: <http://rsy-nagoya.com/>

TEL: 052-253-7550

FAX: 052-253-7552

MAIL: info@rsy-nagoya.com